

## 第 68 回国際理解・国際協力のための高校生的主張コンクール東京都大会 特賞原稿 1

東京高等学校

廣瀬 日乃

### 課題③

もし私が世界の問題を一つだけ解決できる立場にあったら、何を達成し、どのような世界にしたいか。

### 副題

世界平和のための未熟な提案

もし私が世界の問題を一つだけ解決できる立場にあったら…。私は、紛争問題解決を達成し、世界中の人々が憎しみを抱かずに平和に暮らすことのできる世界を実現したいです。

ある日、シリアのアレッポを写した美しい写真を目にしました。歴史的な建造物が数多く残る古代都市として、ユネスコ世界遺産に登録されているアレッポ。しかし、長期にわたる紛争によりほとんどの建造物が壊滅し、かつての美しい街並みはもう見られません。シリア人権監視団によると、シリア紛争の死者は 2020 年末時点で 38 万人を超えたそうです。さらには、世界中で約 8240 万人が紛争などにより故郷を追われ（2020 年末時点）、児童の就学をも阻害していることが UNHCR の発表から分かります。紛争は沢山の人の命を奪い、故郷を奪い、教育機会を奪います。したがって、世界中の人々が平和に、幸せに暮らすためには、紛争問題の解決が必要不可欠であると考えます。

紛争の原因は地域によってさまざまですが、多くの紛争の火種が何かしらの「対立」であることは間違いありません。では、対立とは何が原因で起こるのでしょうか。私は、対立は「違い」によって起こると思います。考えの違い、宗教の違い、民族の違い…。そして、それらを利用して自らの目標を達成しようとする人々の存在もあります。「違い」を排除するために人々は傷つけ合い、その過程でお互いに家族を失い、友を失い、憎しみを募らせていく。報復はさらなる憎しみを呼び、負の連鎖に陥る。このように、武力による争い・報復は憎しみを生み、新たな悲劇へと繋がるのみです。仮に武力によってのみの一時的な和平が実現されたとしても、お互いへの憎しみは燻り続け、少しのきっかけで対立は蘇ってしまうでしょう。では、どうすれば良いのでしょうか。私は、「対話」でのみ本当の和平は実現されると考えます。お互いの仲間を傷つけ合った敵同士が対話をするというのは、勇気が必要なことです。ですが、私はこの勇気こそが真の平和への切符であると主張します。対話をするにより、過去の過ちを赦し合い、互いの違いを尊重することでこそ、現在の対立を根絶させ、未来の対立を予防することができると思うためです。

しかしながら、現実はその通りいきません。紛争はお互いにとっての正義のぶつかり合いであり、過ちだとすぐに認めるのは簡単ではないためです。お互いの行為を赦し合う

ことにも時間がかかるでしょう。そのため私は、対立している人々が「共通の課題」解決を軸に対話することのできる枠組み作りを提案します。食糧不足、災害、テロリズム、感染症などの「共通の課題」はどの地域にも存在し、仲間の生存に関わる課題は緊急を要します。したがって、これらを解決するための取り組みのための話し合いや連携は、対立の程度にも左右されると思いますが、敵同士であっても通常時よりスムーズに進むと考えられます。そして、この話し合いは対話を生み、調和を生む可能性を秘めています。この提案は克服すべき点がいくつもあるでしょう。しかし、この提案が実を熟し、分かり合えないと思っていた者同士が共通の課題を共に乗り越えられた時、両者の間には絆が芽生え、共存の道が開かれるのではないのでしょうか。

「私たちの世界は COVID-19 という、共通の敵と対峙しています。このウイルスには、国籍も民族性も、党派も宗派も関係ありません。すべての人を容赦なく攻撃します。その一方で、全世界では激しい紛争が続いています。(中略) COVID-19 対策で歩調を合わせられるよう、敵対する当事者間でゆっくりとでき上がりつつある連合や対話から、着想を得ようではありませんか。(後略)」

アントニオ・グレーテス国連事務総長の言葉です。国際連合は、中立の立場から紛争当事者に対して「対話」を促し、平和を構築することのできる唯一無二の国際機関です。対話を持続させるために「共通の課題」解決というテーマを取り入れることができれば、課題も、人々の対立も少しずつ解消され、紛争問題の根本的解決が達成される日が近づくのではないかと、私は考えるのです。

深刻な課題が発生したら、逆にそれを利用して、世界の絆を深めようではありませんか。国際協力という名の、確固たる団結の力で。